

GERD(胃食道逆流症)について

日本消化器病学会専門医の宮池次郎先生に「GERD
(胃食道逆流症)」について伺いました。



▲副院長 宮池次郎医師

GERD 胃食道逆流症は、胃の中の胃酸や消化液が食道へ逆流すること、さまざま症状を引き起こす病気です。

多い食事、飲酒、喫煙などがあり、食道と胃の境目にある筋肉の働きが弱くなることで胃酸が逆流しやすくなります。近年は食生活の欧米化や肥満の増加に伴い、患者数が増えているといわれています。

あるバレット腺がんの発生源地となることが知られています。バレット腺がんは欧米で増加しており、日本でも少しずつ増えているため注意が必要です。

GERDの治療では、食べ過ぎを避ける、就寝前2〜3時間は食事をし

主な症状には、胸やけ、酸っぱいものが口まで上がってくる呑酸(どんさん)、胸の痛み、のどの違和感、慢性的な咳などがあります。特に食後や横になったときに症状が出やすいのが特徴です。

原因としては、加齢、肥満、食べ過ぎ、脂肪分の

GERDが長期間続くこと、食道の粘膜が胃酸による刺激を受け続けるため、食道の下部が胃の粘膜に似た組織へ変化することがあります。これをバレット食道といいます。バレット食道そのものは症状がないことも多いですが、一部の患者さんでは食道がんの一種で

ることがあります。胸やけを繰り返す方は、一度消化器内科で相談することが大切です。GERDは適切な治療で症状の改善が期待できるだけでなく、バレット食道やバレット腺がんの早期発見にもつながります。



社会福祉法人

恩賜財団

済生会今治病院

0898-47-2500

今治市喜田村7丁目1番6号



<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>